

## 慶應義塾大学ビジネス・スクール

# デラ・クルーズ・イングリッシュ・クラブ (DCEC)

2004年6月、(株)デラ・クルーズ・イングリッシュ・クラブ(以下、DCEC)の佐々木良介社長は、創業丸1年余りを迎えようやく軌道に乗り始めた同社の経営をこれからどのように舵取りしていくべきかについて、思いを巡らせている。

### 佐々木社長の経歴とDCEC創業への経緯

佐々木は、2003年3月にDCECを設立するまでは、ある大手化学会社のミドルマネジメントだった。1981年に早稲田大学を卒業して同化学会社に入社、数年間営業現場で勤務する間、入社3年目で売上げ全国ベスト10表彰を受け、5年目には部下5人を持つブランチマネージャーに昇格した。

その後、人事勤労部に配属され、採用・人事・給与・厚生などの業務に携わり、本社人事勤労課長を経て、1996年、同社主力工場の管理部長(総務、人事、経理、購買、システム、企画等を統括)に就任、併せてある子会社の代表取締役も兼務した。

管理部長となった佐々木は、生産事業の国際化を推進していた本社の方針に沿って、現地人経営幹部を同工場に受け入れて教育研修する一方、同工場の従業員を対象として英会話研修を含む国際人材育成プログラムを実施、米国、英国、オランダ、オーストラリア、タイ、中国などの海外関係会社に幹部や技術者を多数送り出した。

佐々木は、また、同工場の組織的活性化にも取り組み、当時注目を集めていたS.R.コヴィーの『7つの習慣』を工場の管理職全員に読んでもらい、その後順番に従業員全員にその研修を受講させたりした。佐々木は、また、そうした試みの中で、小野桂之介の書いた『ミッション経営の時代』を読んで共感し、これを工場に導入しようと決心した。

---

このケースは、表記企業の好意ある協力を得て、小野桂之介教授がクラス討議の基礎資料として作成したものである。ケース中の数値の一部は、変更されている。

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、ケースの複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクール(〒223-8523 神奈川県横浜市港北区日吉本町2丁目1番1号、電話045-564-2444、e-mail case@kbs.keio.ac.jp)。また、ケースの注文は <http://www.kbs.keio.ac.jp/case/index.html>。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、本ケースのいかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またはいかなる方法(電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない)による伝送は、これを禁ずる。

Copyright © 2004 は小野桂之介が保有する。